

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	3 3		学校名	茨城県立茨城東高等学校						課程	全日制		学校長名			高野 太一		
教頭名	高橋 和則												事務（室）長名			横須賀 亘		
教職員数	教諭	2 1	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	8	実習教諭、実習講師、実習助手、養護助教諭		1	事務職員	3	技術職員等	4	計	4 5	
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数				
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科			2 8	1 3	2 3	1 4	2 9	3 4			8 0	6 1	6				
	科																	
	科																	

2 目指す学校像

「友」とともに。「先生」とともに。「地域」とともに。さあ！新たな一步を踏み出そう！

- 自分の発想やアイデアを大切にし、何にでもチャレンジする姿勢を育成する。
- 学校生活を通じて、集団活動の良さを理解し、思いやりの心を持った良い人間関係を育成する。
- (1) 新たな夢・希望を常に持ち続け、自己の未発見の可能性を知る。
- (2) 基本的生活習慣を確立し、基礎学力を向上させ、希望進路の実現を目指す。
- (3) 感謝の心で生活し、多様性とお互いの良さを認め合える集団づくりを実践する。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針
（グラデュエーション・ポリシー）

- グランドデザインの「目指す生徒像」等に対応
- ①目標に向かって自ら考え、個性と創造力を活かし、一生懸命に取り組むことのできる人財
- ②知的な好奇心を持って探究し、自らの意志で選択できる人財
- ③社会の多様性を理解し、地域を牽引するリーダーとして、地域社会に貢献できる人財
- ④他者を思いやり、公共や倫理を重んじることができる人財

別紙様式 1 (高)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○学校経営計画表の「中期的目標」等に対応 ①健全で調和のとれたたくましい人間育成を目指し、規範意識の高揚と基本的生活習慣の徹底を図るための道德教育の確立の実現 ②確かな学力を身に付けるため、自らが学ぼうとする態度を身に付けるための指導と、基礎学力の向上を図る教育課程の編成 ③SDGs等についての理解や参加を促すため、地域社会の教育力との連携を深めるなど他者と協働し、地域の環境保全や国際理解を図るための体験的な学習と探究する機会の提供 ④キャリア教育の充実を図り、アウトプットの学びをとおして進路意識を高揚させ、進路希望に応じた選択科目を適切に選べるようなガイダンス機能の充実と進路指導体制の確立
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○入学者選抜における特色選抜実施概要の「出願要件」等に対応 ①学校生活に目標や活力を持って主体的に臨み、生徒会活動や学校行事、資格取得、部活動等に限らず自身の得意を伸ばそうと積極的に取り組む意欲のある生徒 ②地域の諸課題や環境保全に興味を持ち、ボランティア活動や探究活動等を通して地域を支え、地域に貢献しようと努める生徒 ③学びに向かう意欲があり、学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自立した職業人として社会に貢献しようとする確固たる意思を持つ生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	- 電子黒板を取り入れた授業が生徒に受け入れられており、授業に対しての興味関心を持つ契機になっている。特に学校設定科目「ベーシックトライ」では電子黒板の活用と反復学習が奏功し、基礎学力や学習意識の向上が見られた。 - 学習に苦手意識を持ち、学習習慣が身に付いていない生徒がいる。 - 学習に対する目的意識が希薄で、目標設定がなされていない生徒がいる。	- 電子黒板及びタブレット型パソコンの利活用の更なる工夫。 - 日頃からの教材・指導法の工夫改善や探究活動による、分かる授業・達成感の持てる授業の実践。 - 何のために今学んでいるのか、という学習の目的を生徒に認識させる授業の実践。 - 家庭学習の習慣化を図る。

別紙様式 1 (高)

進路指導	・学校設定科目である「キャリアデザイン」と「ベーシックトライ」を導入した効果が表れている。 ・インターンシップやデュアルシステムといったアクティブスクールの特色を活かした進路実現を果たしている。 ・学校紹介による地元への就職内定率は高い水準を保っている。 ・関係機関（ハローワーク等）と連携を図り、支援や障害の有無に関係なく、就職先を開拓している。 ・推薦入試や総合型選抜、ＡＯ入試を活用した進学者が多い。 (令和 6 年度は大学 3 名、短大 1 名、専門学校等 13 名)	・各年次の目標を明確にするとともに、3 年間を見通したより計画的・系統的な指導による「キャリアデザイン」に係る取り組みの推進。 ・就職に関しては、学校斡旋での内定率は 100% となった。内定後の辞退者や入社後の早期退職者がでないように、今後も早期からの就職に対する意識付けと面接指導等を行う必要がある。 ・主に大学進学希望者等を対象とした課外や個別指導の充実と模擬試験等の更なる活用。
生徒指導	・規範意識や基本的生活力に欠ける生徒が目立つ。 ・自分に都合良く物事を判断して行動する生徒が多く、やや協調性に欠けるところが目立つ。 ・自己効力感の低い生徒や、家庭環境が複雑な生徒など、悩みを抱えた生徒が多く、丁寧な指導が求められる。 ・いじめ問題に対する迅速な認知と対応がおこなわれている。	・生徒の規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を目指す指導の徹底（身だしなみ指導、携帯電話指導、遅刻指導など）。 ・学校教育全般を通じた道徳教育の充実。 ・スクールカウンセラーの積極的活用による教育相談体制の充実などを含めた組織的な生徒指導体制の構築（報告・連絡・相談）。
特別活動	・生徒会及び常任委員会は、生徒が主体的に活動できるようになりつつある。 ・自然環境保全活動団体「We are 涸沼っ子！」の設立にともない、校内外において、ボランティア活動等を実施することで、地域社会の一員としての自覚や奉仕の精神を培っている。 ・部活動では、本校単独での大会出場が難しい部活動があるが練習に励んでいる。また、文化部においても、コンテストやコンクールなどへの出場を目標にした創作活動に熱心に取り組んでいる。	・生徒が活躍できる場所と機会を増やすための定例かつ偏りのない常任委員会活動の実施。 ・校内外において、ボランティア活動や体験的な活動を奨励し、地域社会とのつながりとともに一人一人の心の成長を図る。 ・キャリア・パスポートの有効な活用を図る。 ・部活動の奨励と、一層の指導の充実。

別紙様式 1 (高)

働き方改革	・年間で月ごとの勤務時間外の時間超過者が 8 0 時間超は 0 名、4 5 時間超は延べ 1 2 名であった。	・校内組織を見直し、学校として担うべき業務を整理・業務改善を図ることで、勤務時間外の校内在校時間の縮減に努める。 ・入学者の人数が依然として定員割れの状態であるため、教員の人員も削減されている。そのため、一人あたりの業務量は増加の一途である。行事の見直しや常任委員会などの削減などをおこなう。
生徒に対する安心・安全の実施	・生徒が心や身体に傷を負い、生徒間のトラブルを「いじめ」問題と捉え、被害生徒に寄り添った指導を展開している。 ・県教育委員会ははじめとする関係諸機関と早期の段階から連携をはかり相談しながら適切に対処している。 ・防犯カメラを 4 台設置し、本館 1 階の出入口に死角ができないようにしている。	・希死念慮や自傷行為など命に関わる事案が急増したこともあり、全教職員で生徒ひとり一人を観察し、情報を共有して生徒個々の理解に努める必要がある。 ・生徒に寄り添う指導と支援を重視していることから、教職員の人員不足の影響がないような仕組み作りが急務である。 ・生徒指導というよりは生徒支援のための専門職員の常駐が必要である。
キャリア・パスポートの充実	・茨城町が主催するワークショップに参加し、町民と連携しての町作りをおこなっている。 ・英語プレゼンテーション等の各種コンテストに参加し、生徒の得意を伸ばす教育を実践している。	・様々なビジネスコンテストや I T コンテストなどがあるが、生徒を導く教員に偏りが出てしまう。
授業改善の促進	・県教委が年度末におこなった生徒による学校評価において「授業満足度」の学校全体の評価平均は 3. 3 (最低は 2. 4) であった。また、授業改善重点項目は 3. 3 (最低は 2. 3) であった。	・個々の授業においては、生徒から様々な評価が浮き彫りとなっている。授業満足についての評価は 3. 4 以上を目指すことで、学びの質の保障を果たしたい。

5 中期的目標

- (1) 健全で調和のとれたたくましい人間育成のため、規範意識の高揚と基本的生活習慣の徹底を図り、道德教育の確立を図る。
- (2) 確かな学力を身に付けるため、自発的な学習態度や家庭学習の習慣を身に付けるための指導法を改善し、基礎学力の向上を図る。
- (3) 生徒の進路意識の高揚を図るため、キャリア教育を充実するとともに、ガイダンス機能を充実させ、進路指導体制の確立を図る。
- (4) 働き方改革について、職場環境を整備するとともに、職員の意識改革や職員のメンタルヘルスの充実を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) キャリア教育を軸として地域の教育力を活かした取組のさらなる充実を図る。	ア 全職員の共通理解のもと、キャリア教育の取組を推進する。 イ 生徒、保護者、地域の要望を的確に把握し、特色ある取組を実践する。 ウ 学校規模、生徒の実態等を考慮し、取組の改善に努める。
(2) 生徒一人一人の進路実現に向けた教育活動のさらなる充実を図る。	ア 学習指導要領の内容に即した「ベーシックトライ」の効果的な指導方法の改善を図る。 イ 習熟度別学習や少人数指導によって、基礎学力の確実な定着と応用力の育成を図る。 ウ 「主体的で対話的な深い学び」を実現するために I C T の活用や探究学習を取り入れた授業改善を積極的に実施する。 エ 教員による相互授業参観や校内研修等を実施して、指導力の向上を図る。 オ 家庭学習の習慣化とチャイム着席指導を徹底することで、授業を大切にする意識を育成する。
(3) 道德観・倫理観を育成し、豊かな人間性を培う。	ア 「ダメなものはダメ」という厳しい態度とともに、生徒に寄り添う姿勢で指導に当たる。指導は共通理解のもと教職員全体で行う。 イ 生活の自己管理能力を涵養する。 a 基本的生活習慣を確立させる。『欠席をしない』、『身だしなみを整える』、『あいさつを励行する』、『時間を守る』の徹底を図る。 b 礼儀や言葉遣いなど、基本的なマナー及び公共マナー・交通マナーを身に付けさせる。 c いじめ問題や希死念慮など命に関わる事案の早期発見と早期対応のため、生徒ひ

別紙様式 1 (高)

	とり一人に寄り添いながら声かけや観察をおこなう。
(4) 学校行事や部活動等を通して学校生活を充実させる。	ア 部活動等への興味・関心を高め、隙間時間を利用して学校生活を充実させる。 イ 生徒会・各種委員会活動の活性化を図る。(学校への帰属意識の高揚、高い目標での自己実現) ウ 校内外での体験的な活動を通じて、自己肯定感を高めるとともに、他者への理解を深め、一人一人の心の成長を図る。
(5) 家庭や地域から期待され信頼される学校づくりを推進する。	ア 家庭・地域社会と適切に連携協力して、地域から期待され、信頼される開かれた学校づくりを推進する。 イ 学校ホームページやマスコミ等を活用して、学校の教育活動及び生徒の活躍する姿を積極的に発信する。 ウ 事件・事故の未然防止に努め、安全・安心な学校づくりを推進する。
(6) 働き方改革の推進	ア 1月の勤務時間外の校内在校時間合計が、80時間を超える職員を0人とする。 イ 1月の勤務時間外の校内在校時間合計が、45時間を超える職員は6人以下にする。
(7) 生徒に対する安心・安全の実施	ア 来校者は最初必ず事務室にて受付を行うなど、来校者の管理の徹底を図る。 イ 危機管理マニュアルを遵守し、事故発生時に正確かつ速やかな対応ができるようにする。 ウ 生徒間のトラブルや事故等が発生した際に全教職員で適切な対応ができるよう、日頃から指導体制の確立を図る。 エ 保護者や関係機関との情報共有や連携を図り、多方面から生徒支援を行っていく。
(8) キャリア・パスポートの充実	ア 生徒が主体となっておこなう茨城町と協働する企画や事業を実施し、広報等で成果を発表する。 イ 生徒の得意を活かすことのできるコンテスト等に積極的に参加する。 ウ 生徒の進路を見据えた資格や検定の取得にチャレンジさせる。
(9) 授業改善の促進 (授業満足度評価 3.4 以上の肯定的な評価)	ア 個々の授業においては、生徒から様々な評価が浮き彫りとなっている。授業満足についての評価は 3.4 以上を目指すことで、学びの質の保障を果たしたい。 イ スタディサプリを用いて、ICTを活用した授業の開発に努める。 ウ 教員の持ち味を活かした授業の工夫と展開を図る。